



西照寺寺報「さいしょう」 第49号  
2025年10月5日  
発行 浄土真宗本願寺派 西照寺  
高岡市吉久2丁目4-40  
郵便振替口座 00780-8-8185 西照寺  
西照寺 WEB <http://nisitera.eek.jp>

# 報恩講勤修

左記のとおり今年度の報恩講をお勤めいたします  
お参りくださいませ

おつとめの時間

十一月六日(木) 午前九時半(朝座)〜

六日(木) 午後二時(御満座)〜

布教使 林 史樹師 高岡市伏木要願寺住職

※布教のお話は午前のみです

午後二時(御満座)のお勤め後、毎月されている

「仏教讃歌の教室」並びに「健康おわら教室」の

発表会があります、是非ともお越し下さいませ

西谷山 西照寺



## 縁起の法

『縁起えんぎを見る者は法を見る。法を見る者は縁起を見る』(中阿含経)。法とは、ダルマ、変わらない真理という意味。縁起とは、あらゆるものは、他との関係が縁となって生起するという「因縁生起いんねんしょうぎ」を略した言葉です。

釈尊は、すべての存在や出来事は、他に依らずにそれ単独で成り立つものはない。無量無数と言つていいほどの因と縁が仮に依り集まって成り立っている(因縁仮和合)。永遠に固定不変なものはなく、因縁が変われば、変化をしていく「無常」な存在である。そして、無量無数の因縁というところで、相互にどこかでつながり支え合っている「一如いちによ」(一つ)の関係にある。そのことを、縁起の法(世界)として、明らかにしてくださいました。

ですから、私は、自らによって存在しているのではなくて、無量無数の因縁によって、他によって存在しているのちです。自分のいのちだと思つていますが、事實は、両親を縁に、一方的にこの環境を与えられ、大自然のめぐみ(空気や水や大地など)、動植物の犠牲、人間相互の関係やつながりよつて、「生かされているいのち」としか言いようがありません。「無自性」「無我」「空」という言い方もします。

しかし、現実には、他者から独立した自分(自性)がいる、「自我」を生きているという私があります。そうすると、自分の願い、殆どは自己中心的な欲望ですが、それを満たすことが喜びで幸せだと。都合の良い自分のあり方に執着(我執)して生きていくようになります。

ですが、現実には自分の思い通りにはなりませんから、苦しみを感じます。

釈尊は「人生は苦なり」と説かれました。

釈尊出家の動機は「老・病・死に思い至ったから」と言われています。

どんなに自分の思いや願いが、かなえられても、誰でもみんな、老人になり、病気になるって、死んでいかなければなりません。そして、そのことを「苦」や「恐れ」「不安」と感じる。その原因は何か、何かに気づけというメッセージでもあるのか。

富と権力と家族まで捨てて出家した釈尊が気づいたのは、「縁起の法」ということでした。「苦」には、そこに気づいてくれというメッセージが込められているのだと。

### 縁起(一如)が「かたち」を現した

どうしたら、このことに気づいてもらえるだろうか。

『この一如宝海よりかたちをあらはして、法蔵菩薩ほうぞうぼさつとなりのりたまひて、無碍むげのちかひをおこしたまふをたねとして、阿弥陀仏となりたまふ』(一念多念証文)と親鸞聖人は言われています。

お釈迦様は、すべてのものが救われていく阿弥陀如来の一念仏の道を現してくださいました。

大無量寿経には、法蔵菩薩の物語として語られています。概略を言いますと、

遠い遠い昔、世自在王仏がおられ、一人の国王がその仏の教えをお聞きして、心からの喜びをいだかれた。そして、自分も仏になって、世の人びとを悩みや苦しみから救いたいと願うようになられた。王は、国を棄て、王位を捨て、世自在王仏のもとで出家して修行者となり、法蔵と名告られました。これが法蔵菩薩です。

法蔵菩薩は、世自在王仏にありとあらゆる諸仏の浄土の状況を教えていただき、途方もなく長い間思惟を重ねられた。そして、仏になって、全ての人が救われていく浄土を実現するための願い(本願Ⅱ四十八願)を発されたのです。遙かな昔に、法蔵の願いは成就され阿弥陀仏とられたということです。

この四十八ある願いの中心は、第十八願です。要点は、あらゆるものが、阿弥陀如来のすべてのものを救いたいという願いを信じて、その国(浄土)に生まれたいと思つて、念仏するものは、必ず浄土に迎えとつて(往生)、必ず悟りに到らせ、ということですが。

阿弥陀如来は、縁起(一如)の世界を「すべてのものを救う」という本願に込めて、念仏(南無阿弥陀仏)として私に届けられていたのです。

### 如来よりたまわりたる信心

(歎異抄第六条)

南無阿弥陀仏と御名を称えることは(称名)、「縁起なるいのちの事実」に目覚めてくれよという、如来の願いが私の心にはたらくということです。

そうすると如何に自分が如来の願いと外れた自己中心的な闇に閉ざされていたかという、「悪の自覚」「懺悔」が生まれる。いよいよ念仏して如来の願いに生きられるようになるとする「信心」が生まれます。

(裏面へ続く)

(中面からの続き)

「ここでいう信心は私が起こすものではありません。私が起こす信心は我執でしかありません。「本願の御心をいただくこと」「如来大悲が私にはたらいている」ことの表現として使われています。『如来よりたまわりたる信心』です。

### 智慧と慈悲

このような私のいのちの事実に目覚めることを「智慧」といいます。親鸞聖人は、『一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり』(歎異抄第五条)とその目覚めを述べられています。一つひとつの存在は違つて見えるが、いのちの根源のところでは、お互いにどこかで繋がっている。私は独立不変の存在なのではなくて、巨大な網の中の一つの結び目にし過ぎないのでないか。人間は関係性(縁起)のなかで生かされているのであって、私を含む網全体が救われなかったならば、私一人の救いなどあり得ない。そのように目覚めた「智慧」が他に対してはたらくときに「慈悲」といいます。慈悲とは、他者のことを自分のことのように思いやる心です。単なる個人の徳目ではなくて、お互いが、ただそこにいるだけで、無条件に尊重されるといふことを、社会全体に貫徹していこうとする実践をとまなうものです。 合掌 (文責 前任職)

## ♪さあ♪みんなて歌おう 仏教讃歌

基本 毎月第1水曜日  
(12時40分~14時)

最初に皆さんと正信偈をととなえます

場 所 西照寺本堂  
ピアノ指導 西田利代美先生  
参加費 ¥300

(光熱費等々)



## 健康おわら教室



基本

毎月第1水曜日  
(14時~15時)

場 所 西照寺本堂

1人 ¥500

指 導 おわら風の会



仏教讃歌終了後、引き続き教室となります

みなさん、楽しく踊りましょう

十一月六日西照寺報恩講、午後二時御満座のお勤めの後、  
右記の教室の皆さんの発表会があります

是非ともお越し下さいませ